

【事業名】南房総生物多様性オフセットプロジェクト～「シェア里山」を外部の力で保全する
（千葉県南房総市） 【団体名】南房総里山未来拠点協議会

令和6年度 生物多様性
保全推進支援事業
実績報告書別紙10－6

事業の背景・目的

南房総地域の課題は全国の中山間地域が抱える人口減少・少子高齢化が引き起こす里山の放置である。放置された里山は空き家や獣害、インフラの崩壊や災害など、多角的な被害を起こす。本事業では、活動の場であるヤマナハウスにおいて、専門的な調査による生物多様性保全に向けた基礎データ収集を行い、それをもとに「森林保全・教育事業」を展開するとともに、これまで行ってきた「観光・交流事業」とも接続する。「関係人口」を活用した「シェア里山」というコンセプトで持続的な里山保全の新たなモデルケースを確立し、生物多様性を保全することが企業のCSR活動となるオフセットの仕組みを作り、持続的な収益化を目指すことを目的とする。

事業の内容

・事業は下記の森林保全・教育事業、生物多様性保全事業、観光・交流事業の3つを軸に実施した。

事業① 森林保全・教育事業

- ・裏山にアート空間を創出
- ・台風による倒木を活用
- ・倒木を支える支柱は古材活用
- ・飾り付けとして、イノシシ骨、カモの羽などの里山素材を使用
- ・ヤマナアカデミーを実施

事業② 生物多様性保全事業

- ・2024年6月～2025年3月に調査を実施
- ・植物435種、昆虫類897種、魚類6種、底生動物39種、両生類8種、爬虫類8種、哺乳類10種、鳥類41種を確認
- ・絶滅危惧種は計82種を確認
- ・令和7年度は里山における指標種を選定し、生物多様性保全の資料作成を行う

事業③ 観光・交流事業

- ・毎月2回の会員向け活動
- ・一般参加も可能なイベント
- ・約900人の訪問者があった
- ・会員、参加者には当事業の説明や生物多様性保全の意義について説明した

得られた成果

環境的課題：生物調査を詳細に行った結果、当初の想定以上の絶滅危惧種を確認することができた。
現状の生物多様性については一定以上の成果を得られたと考えられる。

社会的課題：令和6年度におけるヤマナハウスの訪問者は約900名となり、過去最高であった。
訪問者の内訳としては幅広い年代／職業／属性が集まっており、訪問者への生物多様性についての啓蒙も進めることができた。

今後の計画：令和7年度は活動継続のため、主に企業をターゲットとしたCSR活動の提案資料を作成し、持続的に収益化になる仕組みを作る。

